

は進行役の活動内容      は留意点      ・予想される回答例      は観察したことの考察

活 動 内 容	時間
<p>〔はじめに〕 資料 を配り、合同研修会の目的を説明する。</p>	5分
<p>〔導入〕雰囲気作り 話を聞く場面の幼児と児童の写真を1枚ずつ見せて、子どもたちが話を聞いていると思うか、 、×、 のいずれかの札を第一印象で上げてもらう。 どうしてそのように思ったのか意見を聞く。 写真は、参加者がお互いの「話を聞く姿」のとらえ方を知るために使う。初対面の参加者が多いことを想定しているのでお互いの考えを知る程度にとどめ、あまり詳しく理由は聞かない。 ・下を向いたり、横を向いているので話を聞いていないと思う。 ・先生の方に顔が向いているので、話を聞いていると思う。 「表情、眼の輝き、先生の方を向いている、姿勢など色々出ましたが、今度はビデオを見ながら考えましょう。」</p>	10分
<p>〔展開1〕話し合い1 ワークシートを配る。保育ビデオ『ここだからね せんせい』の一場面（5歳児の学級で生活グループを作るために、教員が説明している場面）を視聴し、学級全体に話をするときの教員の指導について話し合ってもらおう。（進行役の説明1分、ビデオ視聴3分） 先生の意図は伝わっていたか、子どもたちはどんな思いで話を聞いていたか、意見交換をしてもらおう。 「先生の意図は伝わっていたでしょうか。」 「子どもたちはどんな思いで聞いていたのでしょうか。」 「けんちゃん、いい？（こっち向いて）」の発言についてどう思ったか、なぜ先生はこう言ったのかなど、話し合ってもらおう。 「けんちゃんいい？の言葉で、子どもはどう感じたでしょうか。」 「けんちゃんいい？は、聞けない子を注意しているのでいいと思う。」という内容の意見が出た場合は、「周りの子どもたちは、けんちゃんいい？という言葉聞いてどう思いましたかね。」と投げかける。 ・子どもとの人間関係が築かれていれば、「けんちゃんいい？」なんて言わなくても、こんなに大きな声を出さなくても先生のことを理解しようと子どもたちが思っているので、かえって小さい声になる。先生がけんちゃんは聞いていない子だというイメージを周りの子に伝えている。 ・信頼関係をこわしている。有り様をすべて受け止めてくれる安心感が欲しい。 幼児期から小学校低学年では、先生と子どもとの人間関係が大事である。 「話をしっかり聴く姿」のとらえ方の共通点や違いを確認する。 「それでは、次に小1男子の事例について話し合ってもらいます。」</p>	15分

## 〔展開2〕話し合い2

20分

小1の事例『じっとしてられないT男』の資料(いつも落ち着きがなくおしゃべりもしてしまうT男が「今日の校長先生の話、よく分かったよ。」と言った場面の事例をまとめた資料)を読んで、T男の聴く力を伸ばす指導について考えてもらう。

前半の部分だけ配り、あなたならT男にどのように声をかけるかなど、意見を聞く。

「T男君にこの後どのように声をかけますか。」

落ち着きのない子は違うことを考えているのだから話を聞いていない、という内容の意見しか出てこない場合は、落ち着きがないと思っていたが、本当はよく聞いていた、逆に姿勢がよくて聞いていていると思っていたら、実際はよく分かっていなかったなどの経験があるのではないかと、尋ねてみる。

小1ぐらいでは、落ち着きのない子どももいるが、表面的なことだけで聞いているのか、聞いていないのか、分からない。

T男君が「分かった」と言っているのだから、先生はそれを受け止めてやるのが大切。まずは、先生と子どもの一対一の信頼関係を築く、それがまわりの子どもたちのT男君の見方にいい影響を与える。

後半の部分、先生の観察から分かったことを説明する。

「実は担任の先生が、この子がどんなときにじっとしてられないか観察しました。『子どもの行動をよく見てみると、話を聞きたいとき、話がよく分からないからもっとわかりたいとき、質問したことの答えが分かったときにどうもじっとしてられない』ということが分かりました。この担任の先生も、T男君をよく見たり、話を聞いたりしてT男君との関係ができてきたら、T男君は落ち着いた態度が見られるようになったそうです。」

資料5を配る。意見・感想があったら聞く。

・教育観や指導のおおもとは幼稚園でも小学校でも同じであり、教師と子どもとの信頼関係、内面的な心の部分を大切にしたい。

・子どもの話をきちんと聞くことが、話を聞く態度を育てる。

・この先生は、子ども一人一人をきちんと見るという姿勢ができています。

幼稚園でも小学校でも、きまりより人間関係ができてくると聞くようになる。

小学校でも、先生がその子を見ようとか、先生が寄り添っていくことによって子どもが落ち着いて話を聴くようになる。

聴きたいという気持ちが育ってくると、自然と話を聴く態度も育ってくる。

話を聞くときのルールより人間関係ができてくると聴くようになる、子ども一人一人を大事にするなど、幼小共通している指導の基本をおさえる。

## 〔展開3〕話し合い3

20分

資料 を配る。

保育所保育指針、幼稚園教育要領、小学校学習指導要領から「話を聞く」に係る部分を抜き出してまとめた資料(筆者作成)を見て、幼児教育と小学校

教育の教育内容はつながっていることを確認してもらおう。

「資料の表を見て、何か気が付いたことなど意見を出してください。」

幼稚園教育要領解説

自分の話を聞いてもらうことにより、人の話も聞こうとする気持ちになる。

信頼関係が成立していくことが必要となる。

幼児は、親しみを感じている教師や友達の話や言葉に興味や関心を持ち、自分から主体的に聞くようになる。

小学校学習指導要領解説 国語編

入門期においては、話し手と聞き手が一対一となる活動を中心に置き、活動経験を積むにつれて一対複数の活動へ広げていくことが大切である。

主体的に聞く態度を養う。

一方的に聞くことばかりでなく、尋ねたり共感したりするなど、双方向的なやりとりの中で聞くことが、この時期の児童には大切なことである。

一対一で聞けるから集団でも聞ける。集団で聞けるから一対一でも聞ける。両方を経験しながら、「話を聞く力」が育っていく。まずは、先生がその子の話を聞いてあげないと、集団の中で話が聞けるようにはならない。話を聞いてもらったという経験を積み重ねることが大事。

教育内容や指導は幼児期から小学校期までつながっていることを確認する。

これまでの幼稚園の参観の中で、小学校へのつながりを感じられた具体的な事例を2～3紹介する。

#### 事例1

4人組の男の子たちは街を作っていたのだが、途中で作っていたものを片づけないで違う遊びを始めてしまう。

担任が保育室に入り、後ろの方が散らかっている様子を見て、先生「これじゃ、先生にはまちだか、ごみだか分からないなあ～。」

子どもたち「まちだよ。」

先生「それじゃあ、先生にまちだかごみだかおしえて。」

それを聞いて、男の子4人は片づけ始めました。

先生が子どもたちに片付けてほしいときに、「片づけなさい。」とは言わない。子どもたちが作るだけでなく、しっかり片づけることにも気づかせ、自分から進んで片付けさせようとしている。

#### 事例2

先生「年中さんのときにジャガイモ植えたの、覚えていますか。」

子どもたち「おぼえてる。」「おぼえてる。」「おぼえてる。」

先生「みんなの植えたジャガイモが大きくなったので、明日ジャガイモ掘りをします。」

「よごれてもいい服。」「長ぐつ。」

先生「そうです、そのとおり。今、君が言ってくれたようによごれてもいい服、さんが教えてくれたように長ぐつを用意してください。」

みんなよく話を聞いている。君は身を乗り出して聴いている。

「みんなにはおたよりを配りませんので、お家の人によくお話をしてくださ

<p>い。」</p> <p>まだ先生が話をしている途中で子どもたちが話し出したのに、怒るところかほめている。子どもたちの発言を大切にし、自分で考え、判断する意欲を育てようとしている。</p> <p>また、子どもたちが心配になっておたよりを配りがちであるが、子どもたちを信用し、自分の口で家の人に話すように言っている。子どもたちに責任をもたせ、先生から聞いたことをしっかりと家の人に伝えることが、子どもたちの自尊心を大切にし、意欲を育てることにつながるのだと感じた。</p> <p>日常の指導から幼小のつながりを感じたような経験はないか尋ねる。</p> <p>「日常の指導の中で、幼小のつながりを感じたようなことはありませんか。」</p> <p>幼児期と小学校期における子どもの実態の共通する部分や指導のつながりをとらえるようにする。</p>	
<p>〔まとめ〕確認</p> <p>日常の指導を振り返り、幼小のなめらかな接続を目指し、今後自分たちの指導をどうつなげていったらよいか考え、話し合ってもらおう。</p> <p>幼小のつながりを考え、実際の指導に結びつけられるよう話をまとめる。</p> <p>アンケートを配り、記入してもらおう。</p> <p>資料 資料4 「話をしっかり聞く」についての教育観の聞き取り調査の説明をする。</p> <p>「聞き取り調査では、幼稚園と小学校で教育観に少し違いがあったような気がします。話を聴く力を育てるためには、自分を受け入れてもらっている、自分の話を聴いてもらっているという信頼関係が大切であり、それは幼児期から小学校期まで共通であると思います。」</p>	10分

〔提示資料・事例について〕

- [ 導入 ] 一般的な幼稚園や小学校での、「話を聞く」場面の写真を使用した。
- [ 話し合い1 ] 『ここだからね せんせい』（岩波保育シリーズ）のビデオの一場面を使用した。
- [ 話し合い2 ] 資料5 『じっとしてられないT男』（「小学校一年生の心理」大日本図書82～85ページより）を使用した。
- [ 話し合い3 ] 『小学校へのつながりを感じた具体的な事例』については、  
「資料編 資料 幼稚園参観記録」の中から2～3選んで紹介した。